

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1473300612	事業の開始年月日	平成16年2月1日	
		指定年月日	平成16年2月1日	
法人名	特定非営利活動法人 友宝			
事業所名	グループホーム 友宝			
所在地	(〒226-0023)			
	横浜市緑区小山町292-10			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	18名	
		ユニット数	2ユニット	
自己評価作成日	平成22年9月23日	評価結果 市町村受理日	平成22年12月9日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様の人権を大切に、センター方式シートを活用をして入居者様が主人公という立場を大切にしたケアを心がけている。
心が和らぐ木造の建物で、竹林、雑木林に恵まれている。
庭には畑があり、年中新鮮な野菜が収穫でき、2Fテラスには、プランターを置き、花などが絶えないようにしている。
食事内容は、食材購入から、自分たちで行い、手作りをしている。献立も、献立会議を開き、吟味している。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	平成22年10月8日	評価機関 評価決定日	平成22年11月30日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

＜優れている点＞
◇利用者の家庭的生活の継続支援
・木造風の建物で、庭に畑を作りボランティアと一緒に野菜を育てて食材として食卓に乗せ、職員とテーブルを囲み、談笑しながら食事をしている。
・自治会に加入し、敬老会、盆踊り等の自治会行事に参加し、散歩の途中で地域の団地住民や小山保育園の子どもたちと日常的に挨拶や言葉を交わしている。
・顔なじみの住民や職員のさりげない見守りで、一人での外出もできている。
◇終末期に向けた対応
・終末期の対応指針により家族と確認書を交わし、協力医、24時間訪問看護と連携してターミナルケアを実施している。利用者は、居室に寝泊りする家族や他の利用者、職員に見守られて終末期を過ごしている。看取り後、職員の気づきを基に、管理者は職員の精神面のケアを行ない、事業所の振り返りを医療関係者に伝えている。
＜事業所が工夫している点＞
◇災害に向けた地域の支援体制
・地域の土砂災害避難訓練を加入自治会や近隣自治会と合同で実施し、災害時に向けた自治会との支援協力や、地元消防団との夜間協力体制が整ってきている。
◇清潔でゆったりとした環境
・檜造りの建物は日常的にボランティアの協力で清潔を保ち、年2回は念入りに大掃除し、利用者は木の香りがする吹き抜けの建物でゆったりと過ごしている。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	友宝
ユニット名	のどか

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過させている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	相談室に理念と、自分たちで作ったキャッチフレーズを掲げ、常に目に触れるようにしている。が、時間をとり、理念を意識する研修などの取り組みまでには、至っていない	・法人理念「慣れ親しんできた生活の継続の尊重」を基に、「利用者の尊厳・地域密着」を加えて6項目の理念にまとめた。それを職員が日々目にする相談室に掲示し、具現化に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の保育園の運動会、七夕祭り、自治会総会、敬老会、盆踊り等の行事に、参加。災害時の避難訓練を地域と合同で実施。	・自治会に加入し、敬老会、盆踊り等の自治会行事に参加するほか、清掃、見守り、散歩、踊りやギター演奏などのボランティアを受け入れている。 ・散歩の途中で隣接団地住民や地域の小山保育園の子どもたちと日常的に挨拶や言葉を交わしている。	隣接する市営谷津田原第二住宅団地と、避難訓練などを通じ交流が深まっています。事業所の資源を活かし、相談に乗るなど、さらなる地域交流を期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症キャラバンメイト活動に参加し、地元農協婦人部総会時や、提携医療機関の保健講座で、認知症の啓発活動している。認知症で困っている方の相談。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年3～4回、開き、主に、防災面の話し合いをしている。その中で、夜間時の協力体制強化のため地域消防団の協力が得られた。今後は、会議の回数を増やし、充実を図りたい。	・運営推進会議は利用者家族、民生委員、地域包括支援センター職員、自治会長の参加で年3、4カ月に1度開催している。 ・事業所の現状を報告し、出席者から地域の行事や防災面の情報を得ている。防災訓練に参加し、地域消防団との夜間協力体制ができた。	
		市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えるながら、協力関係を築くように取り組んでいる	防災関係で、共同訓練や、依頼により、見学会をしている。また、入居希望者の情報交換などもしている。	・区担当者とは認定更新や福祉サービス利用の相談などで常時連絡を取り合っており、スプリンクラーの取り付けの助言を受けたり、事業所の実情も報告している。 ・緑区の要請で防災訓練に参加したり、民生委員等の見学会を積極的に受け入れ、入居希望者情報も得ている。	

友宝

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	自由に散歩に出たい方（1日4～5回）も、スタッフやボランティアの協力の元外出している。玄関は入居者の安全が確信できる場合は、開錠している。日常は、内からは開けられ、外からは入れないようにしている。	・「身体拘束ゼロの手引き」で研修し、カンファレンスなどでも拘束にならないか常に話し合い、身体拘束のないケアを実践している。 ・玄関は日常的に施錠せず、一人で外出する利用者には、安全に配慮して後から職員がさりげなく見守っている。時間帯によって安全・防犯目的で施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修参加し、カンファ時に報告しながら、全員に周知する努力をしている。オープンに、入居者一人一人をスタッフ全員が関わっていることで、異変があればすぐ気付く。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	上記のように、周知させている。また、後見人については、必要に応じて、家族と相談している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間をかけ、丁寧に説明し、不安や疑問点を尋ね、理解・納得を図っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会、来訪時、又、電話で対応し、また、気軽に「お声かけください」と常々伝えている。	・利用者の要望は生活の中での会話や表情から汲み取っている。 ・家族来訪時には話しやすい雰囲気作りに努め、また、家族会を年2回開催して、家族の意見要望を聞き取り、会議で検討した上で運営に反映している。	

友宝

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の、カンファレンス・合同会議に、法人代表者・管理者が出席し、職員の意見を聞く機会を設け、反映している。	・管理者及び法人役員は、カンファレンス、全体会議に出席し、職員の意見・要望を聞き、会議で話し合い、サービス向上に反映させている。 ・職員から出た研修、接遇への意見は運営法人が検討し、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	同上 資格手当支給、時給の改善計画案がある		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	同上 研修費・交通費・時間外手当の支給をしている。又、ホーム内研修、初任者研修・スキルアップ研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	GH連絡会に参加し、ブロック会・研修・交流している。市の委託事業に協力し講演会開催の手伝いや、グループホーム間の交換研修に参加している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ケアマネジャーに情報提供してもらい、また、入居前の生活、過去暦などセンター方式のシートに家族に書いてもらう。面接時に本人や家族の希望を聞く対応をしている。		

友宝

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	同上		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時から約3週間は、本人の様子、意向を知る機会を設け、その対応を図っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に、入居者が主人公の立場で対応し暮らしを共にする関係作りに気をつけているが、全スタッフにはいき渡ってない。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と共に散歩、ターミナルの方に家族の食事介助の協力がある。が、すべての家族と共にまでにはいってない。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	大切にしている宗教の関係者の来訪あり。手作りケーキ持参の方あり。ターミナルに近い方の、食事介助をご家族が協力。	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者本人や家族から馴染みの人や場所について聞き取り、来訪者には職員が必ず声かけして、居間や居室で過ごしてもらっている。 ・墓参やなじみの外食店に行きたいという利用者の希望を家族に伝えて誘ってもらったり、通い慣れた美容院に行きたい要望には職員が付き添って行っている。 	

友宝

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングにいる時は皆で楽しく過ごせるように、歌を歌ったり、話しをしたりできるよう、また、車椅子でも出来る料理・家事の手伝いなど支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	郵便物が、退去しても暫く届いたりするので、必ず、お送りしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常の会話の中で把握し、又、センサー方式のシートを使用し、定期または、緊急のカンファで、検討している。	・入居時に家族や本人の要望、意向を把握している。入居後は日常会話を丁寧に関わりやすい言葉で傾聴し、また思いを表現しにくい人については表情、行動を観察し、意見・要望を汲み取るように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、または、入居後も、センサー方式のシートで、家族、関係者の協力で、把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者の意向、身体状況、健康状態を、日常のケアや、スタッフの情報交換、引継ぎやカンファで、把握している。		

友宝

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族・連携している医療機関とも相談し、センター方式シートを活用して、作成している。 ・介護計画には、利用者・家族と主治医の意見を反映している。 ・計画期間は原則3か月としているが、状況が変化したときや家族からの要望により見直している。 ・日々の変化は、ケース記録に記入して計画に反映している。	・介護計画は利用者・家族・医師の意見、毎月のカンファレンス、入居者担当の意見、日々の個別記録等を反映して作成し、6ヶ月をめぐりにモニタリングして更新している。利用者本人の状況の変化や家族の要望を取り入れて、現状に即して見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出したい方がいればボランティアを募り、また、家族で病院の付き添いができなければ、移送ボランティアに頼んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	街の商店街の方、ボランティアで塗り絵・踊り・ギター・歌等の協力があるが、もっと広げていきたい		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	支援している	・利用者1名は従来からのかかりつけ医を受診し、他の利用者は事業所の提携医を主治医とし、内科と歯科の往診を毎月2回受けている。 ・全員が週1回訪問看護を受け、利用者の健康管理に努めている。24時間対応の訪問看護体制があり、緊急時に備えている。	

友宝

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回往診時、又は、24時間連絡体制の中で、相談し、必要に応じて、看護を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	今回は、入院者なし		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時説明し、希望を文書で提出のお願いをしている。家族会の議題にして、ホームの方針を話している。状況に応じて、個別に、医師・家族・スタッフと、協議したりしている。	・終末期対応の指針があり、家族の意向を確認した上で職員と話し合い、医師と訪問看護と連携して看取りを行なっている。開所時から事業所で3名の実施例がある。 ・看取り後、職員の気づきを基に、管理者は職員の精神面のケアを行ない、事業所の振り返りを医療関係者に伝えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急の訓練をホーム内、外部研修で行っている。引き続き、強化していきたい。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	土砂災害時、避難訓練を、地域・行政・理事・入居者・スタッフ参加（約50名）で開催した。消防設備の使用方法を、設備会社に、来てもらって指導してもらっている。引き続き行う必要あり。	・年3回、通報、避難、消火の訓練を行なっている（内、1回は夜間を想定）。 ・今年度は緑区役所総務課・消防署の指導で、土砂災害時の避難訓練を行ない、隣接自治会や消防団を含め、50人以上の参加があった。 ・災害時に向けて地元消防団と夜間を含む協力体制ができている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	研修に参加し、馴れ馴れしい言葉遣いや否定の言葉遣いをしないよう、周知徹底させている。が、全員に徹底されていない時もあるので、改善したい。	<ul style="list-style-type: none"> ・職員はプライバシーに関する横浜市やグループホーム連絡会の研修などを受講し、利用者の尊厳、誇りを傷つけない言動に配慮するよう努めている。 ・管理者は日々のミーティングや日常の介護の中で注意を促している。 	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者さんの中には、未だ、表現しきれない方もあり、引き続き働きかける事が求められている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お天気が良い日は、希望に沿い、テラスで、食事をし、又、外出時は付き添うなどしているが、希望に添えない時もあり、引き続き検討していきたい。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に一度、訪問カットを行っている。又、ご家族に相談し洋服など、揃えて貰っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の準備、食器洗いなどして頂いている。	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者は包丁を使ったり、味付け、後片付けや洗いものを職員と一緒にし、利用者と職員が一緒にテーブルに着き、話しながら食事を楽しんでいる。 ・献立には旬の物を多く取り入れ、庭で栽培した季節の野菜やフキノトウなど新鮮なものを料理して食卓に提供している。 	

友宝

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	糖尿病の方の分量や常食・1口カット・ミキサー食などの形態は、その方に合った物にしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	月2回の往診時、先生と相談しながらし、毎食後、ケアしている。また、寝たきりの方には、口腔マッサージをしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	夜間時は、ポータブルトイレにするなど、なるべく自立した排泄を心がけ、また、排泄表を作り、状態を把握している。	・排泄チェック表からタイミングを計ったり、利用者の様子から判断して早目にトイレに誘うことでトイレで自立できるようになり、自信に繋がっている。 ・ポータブルトイレを使用して夜間の排泄も自立できた利用者もいるなど、自立効果がでている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防に、プルーン、ヨーグルトの摂取をしている。毎日散歩、雨天時は室内で体操をしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	毎日入浴したい、夕食後、入浴したいなど、個々に応じた入浴希望に沿う支援が出来るよう、対応の準備をしている	・入浴時間を利用者と職員の触れ合いの場として大切に考え、日常は、自立している人でも、職員が背中洗と洗髪は手伝い、コミュニケーションを図っている。 ・一番湯や入浴時間の希望に可能な限り対応している。 ・季節には菖蒲湯、ゆず湯などを楽しんでいる。	

友宝

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝る前にワイン、TV見ながら、夜、ビールなど、希望に沿い、支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	週1回の訪問看護、月2回の往診時、等に、相談し、確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	嗜好品の購入、台所での役割、朝の掃除など、行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ボランティアやスタッフ対応で、1日3~4回外出したい方の対応。又、家族と一緒に散歩。家族と共に、外食、冠婚葬祭行事。スタッフと共に、嗜好品の購入。	<ul style="list-style-type: none"> ・天気の良い日には、職員、ボランティア等の同伴で、近隣の公園に散歩に出掛けている。一人で散歩する利用者には、職員が後からさりげなく見守っている。 ・季節ごとに法人の福祉車両を利用して、せせらぎ公園やズーラシアなどに遠出し、それぞれの好きな弁当を大型スーパーで調達し、昼食パーティーを開いて楽しんでいる。 	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在は、財布はホームで保管。必要時に渡し、使用できるようにしている。		

友宝

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は、相談室の電話を使用。海外の家族に手紙を出す入居者の方へも支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関前には、季節の花・植物等を飾っている。スタッフのみでは、掃除が行き届かないので、ボランティア、理事の協力で年末の掃除、草取りをしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・職員による毎日の清掃のほか、ボランティアによる年末大掃除や、建物の全館循環換気システムなどで快適な共有空間が保たれている。 ・職員と利用者合作のお月見ポスターや壁飾りなどを掛け、季節感を出している。 ・利用者の希望で、毎年、お盆には職員も一緒に盆飾りを整え、迎え・送り盆をしている。 	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テラスにテーブル、椅子をおき、外気浴できようとしている。リビングにソファ、廊下にベンチを置いている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、自分の持ち物を、持ってきていただいている。又、状態に応じて、椅子やラジオなど増やしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・各居室のクロゼット以外はベッドや箆笥、テレビなど、入居者の好みの物を持ち込んでいる。 ・室内の壁に自分の作品などを飾りつけ、窓際に鉢を置いたりして、自分の居住空間を作り出している。 ・持ち込まれた仏壇や位牌には職員の支援で、毎日、お水やお花を供えている。 	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	場所がわかる。札をつけている。廊下には、物を置かず、車椅子の方でも安心して移動できるようにしている。		

目 標 達 成 計 画

事業所名

グループホーム友宝

作成日

2010年 12月 1日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	一定の地域との協力で、防災・災害訓練の連携があるが、今以上に連携を強めたい。	地域と協力して、夜間時を想定した避難訓練を行う。	運営推進会議で、話し合い、具体化を計りたい。2011年9月ごろ実施予定したい。	9ヶ月
2	36	入居者の言葉かけ、対応で、「待ってて」等、不適切な場合が見られる。入居者の人権の尊重、プライバシー保護の立場で必要あり。	入居者さんへの言葉かけ、対応を適切に行う	自己点検チェックシートを活用し、3ヵ月毎、振り返りをし、改善を図る。ホーム内研修を行う。	1年
3	3	キャラバンメイト活動が現在年3回。事業所の力を生かした活動が弱い	キャラバンメイト活動を今まで以上行う。事業所の力を生かした活動で何が出来るか、地域にある団体・グループ・サークルと交流の機会を持つ。キャラバンメイト活動を今まで以上行う。事業所の力を生かした活動	キャラバンメイト活動を年3回以上行う。地域にあるグループ・団体・サークル等、自治会の方に紹介いただき交流し、友宝を紹介する。	1年
4	4	日常のケアの充実を図る為の地域資源の利用が少ない。	日常のケアにおいても、地域に協力を得られる事を相談し、ケアの充実を図る。	運営推進会議等の議題にして、日常のケアの協力を相談し、充実を図る。	1年
5					